

2024(令和6)年度

---

---

# 小論文

---

---

10:00～11:30

教養学部

学校教育学科

学校推薦型選抜(一般)

## 注意事項

1. 合図があるまで、この冊子と解答用紙を開いてはいけません。
2. 合図があったら最初に、受験番号を解答用紙の指定の欄に記入しなさい。
3. この冊子と解答用紙について、印刷の不鮮明な箇所や、汚れの箇所を見いだした場合は、すみやかに申し出なさい。
4. 解答用紙は2枚配布しますが、1枚だけ提出しなさい。残りの1枚は下書き用です。
5. 解答は縦書きで書きなさい。
6. この冊子と下書きに用いた解答用紙は、持ち帰ってください。

課題文を読んで、以下の設問に答えなさい。

## 課題文

世界には大きいものから小さいものまで、いろいろな「問題」があります。

人種差別を例に考えてみると、その背景には、経済格差や社会保障の問題などが複雑にからみあった「システム的(systemic)な人種差別」があると言われています。法律や規制などシステム上に明らかな不平等がある「システムティック(systematic)な不平等」とはちがいで、システムをつくり上げる要素一つひとつには差別的なこととはどこにもないにもかかわらず、それらが合わさった時に差別されるようなことが起きています。

そういった「システムティックな不平等をどうやったら改善できるのか？」という問いについて考えられると、みんな答えに困ってしまいます。

サイエンスやテクノロジーの世界ではよく、原因をつきとめるために大きな物事を要素に分解し、一個一個を観察してダメなところをそれぞれに改善し、それらをもう一度組みあげるというやり方で問題を解決しようとします。そういう還元主義は、わかりやすくパワフルな方法論なので、多くの人が社会問題のような複雑な難題もこの方法で解決を図ろうとします。

しかし、実際にはこのようなやり方はまるで役に立ちません。それどころか、分解してみてもなんだかよくわからないとか、そもそも分解できないとか、実際にやってみるといろいろ困難に突きあたり、結局お手上げになってしまいます。

実は、論理的に解決できるようなシンプルな問題はすでにかなり解決しています。逆に言えば、今残っているのは還元主義のような方法論では解決できない、複雑で大きな問題ばかりなのです。

しかも、どんなに学問や技術が進歩しても、問題が解決するどころかむしろ増えているのが現状です。ちょっと不思議なようにも感じますが、その解決のいとぐちはいったどこにあるのでしょうか。

それは、「核心を突く良い問いを立てること」だと僕は思います。

差別の問題であれば、まず「そもそも、なぜ差別つてあるんだろう？」といった根本的な問いを立て、その問いをどんどん深めていくのです。「人種差別と一言でいうけれど、そもそも人種つてなんだろう？ 遺伝的な話なのか？ 肌のメラニン色素が濃いか薄いかなのか？」などいろいろな問いを立ててみます。

そのうちに、「ここから先は実際に調べてみたり手を動かしてみたりしなないとわからない」というところにたどり着きます。それで実際に手を動かしてみる。そうすることで初めて見えてくることがあり、それまでの問いがより深いものになる。そしてまた次の行動を起こす。そこからさらに新しい問いが生まれる。こうしたプロセスを繰り返していくのです。

ちなみに、生物学的・遺伝学的には人種というものは無いと言われています。最近の研究成果として「ある人種に特有のDNAの配列みたいなものは存在せず、あるのは個体差だけだ」ということがはっきりしてきました。それは実際に「調べる」という行動を起こしたからわかったことです。

「でも、明らかにアフリカ系の人やアジア系の人といった傾向はあるよね。それはなんなの？ どこに境目があるの？」という疑問が当然出てきます。「それはただのグラデーションだ」などの意見も出てくるでしょう。すると「そのグラデーションは何段階なんだろう？」という問いが必然的に生まれ、「5段階だ」「6段階だ」「17段階だ」「いや256段階だ」などいろいろな見解が出てくるはず。でも「そもそも人間は何段階を識別できるのか？」といった問いも生まれるかもしれません。

このように問いを立て、仮説をもとに調査や研究などの行動を起こし、そこから新たな問いが生まれ、また研究するというプロセスを続けることを「探究」といいますが、たどってきた道をふと振り返ってみると、「ああ、結構いろんなことがわかってきたな」という事実が気になります。

「イノベーション」といわれるものは、まさにこのような中から生まれるのではないかと思えます。誰かがユニークな問いを立てて行動を起こし、あくなき探究を続けた結果、たまたま画期的な新しい発見や発明が生まれました。それらが普及してふと気がついてみると、これまで問題だとされていたものがたまたま解決していた。それを後世の私たちが「あれはイノベーションだった」

と評価しているのです。

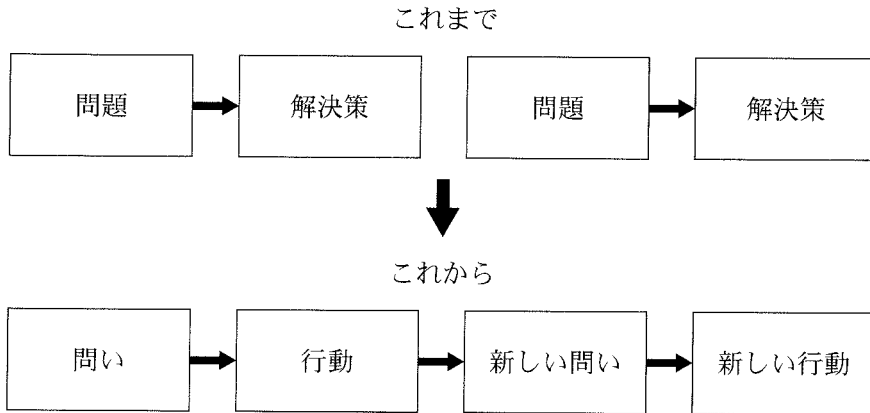
偉大な発明や発見はひょんなことから生まれたというエピソードがよくあります。たとえば、ニュートンはりんごが落ちるのを見て、万有引力の存在に気づいたという話がありますが、当の本人は「イノベーションを起こすぞ！」なんて思っていたわけ

ではないはずです。「重力」という物理学の大事な発見をした彼を「科学技術に貢献した素晴らしいイノベーターだ」と評価しているのは、後世の私たちです。つまり、新しい発明や発見が素晴らしいイノベーションかどうかは、後世の人間が評価する結果論でしかないので。

ですから、論理的な考え方にもとづいた、計算づくの活動からイノベーションが生まれることはほとんどないと言えるでしょう。なぜなら、複雑さのきわみであるイノベーションをあらかじめ予測することは人間の頭脳にはとうていできないからです。

「イノベーションはあらかじめ予測できない」という事実は、歴史をふりかえればいくらでもあります。ヨハネス・グーテンベルクによる活版印刷技術の発明もいい例です。彼が発明した印刷機によって、読書という新しい習慣が生まれました。それと同時に、多くの人々は自分が遠視であることに気がつきました。そこで眼鏡が発明されました。眼鏡のニーズの高まりにそってレンズを生産したり、レンズを使って実験したりする人が増え、それが顕微鏡けいびきょうの発明につながりました。その結果、私たちは自分の体のごく小さな細胞でできていると知ることができました。

つまり、グーテンベルクの印刷機が顕微鏡、そして細胞生物学を生み出したのです。活版印刷技術と、私たちの視界が細胞レベルにまで広がることに深い関係にあるということを、いったい誰があらかじめ想像できたのでしょうか。



本質的な問いを続け、そこから誘発される行動をとるうちに、結果として解決することがある

「なんでだろう？」と素朴に疑問に思い、おもしろがってやってみたことが、思いもかけず新しい発明や発見を生むことがある。その新しい発明や発見は、最初はなかなか理解されないけれど、おもしろかったり便利だったりするので、少しずつ世界に広がり始める。そして、それが全体に普及することによって社会が変わる。社会が変わることによって、それまで「問題」とされていたことがなくなっていることがある。つまり、問題が解決していることがある。

それを「イノベーションだ」と私たちは後づけで評価するのです。

だからこそ、先が見通せない難問だらけのこれからの時代において大事なものは、論理的に解決策を出そうとすることではなく、「良い問いを立てる」ことだと思うのです。問題がなかなか解決しないと、人々は「自分に能力が足りないからだ」とがっかりしてしまいがちですが、難問を解けない本当の理由は、いわゆる「論理的思考」の枠組みにとらわれているからなのだとということに、私たちはもっと目を向けるべきです。

おもむくままに問いを立てて自由に行動することは、学校ではすめられないどころか、「やってはダメ」と制限されることが多かったと思います。しかし、それに不満を持った人が学校を中退したり退学になったりして、そのまま思いきり自分の好きなように探究の旅に出た結果、画期的な発見や発明をしたという例はたくさんあります。

要は、「どのような態度で世界と向きあうか？」という姿勢の問題なのだと思います。

世界を変えていくことによつて後の世代に少しでも良い形でバトンをわたしていきたい。その思いから僕は自分<sup>1</sup>なりの探究を続けています。「自分ごと」になった学問はすごく楽しいし、ワクワクするし、とても自由なものだと知りました。

学校に行く行かないはまったく関係ありません。学びの根底に流れる自由な精神こそ、人間を自由にする技、すなわち「リベラル・アーツ (liberal arts)」なのだろうと僕は思います。

「答えようとするな。むしろ問え」

これを僕は伝えていきたいと思っています。

〔出典：孫泰蔵『冒険の書 AI時代のアンラーニング』(二〇二三年 株式会社日経BP)ただし一部を改変した。〕

設問一

傍線部アで、筆者は、「核<sup>ア</sup>心<sup>ア</sup>を突く良い問いを立てること」と述べていますが、それは、どういうことですか。課題文に即して、二〇〇字以内で説明しなさい。

設問二

傍線部イで、筆者は「自分<sup>イ</sup>なりの探究」と述べて、傍線部ウで、「答え<sup>ウ</sup>ようとするな。むしろ問え」と述べていますが、あなたはこれらについて、どう考えますか。課題文を踏まえながら、あなたの考えを、自分の体験や見聞を交えて六〇〇字以内で述べなさい。